



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と
ひ
と
ツムぐ学生

第45号

2017年8月23日

編集 竹内稔博

(東浦中学校主幹教諭)

夏休みわくわく算数・数学教室特集号 No.24

～そうだ、夏は、東浦へ行こう！ 東浦の子どもたちのために、
そしてSPさん自身の教師力向上のために～

初めてボランティアをやる人がずっとできるシステムと雰囲気



この日は後半の初日。さらには4年生のSPさんが少ないということで、1～3年生の人がそれをカバーしてくれました。さらには、「この日が、わくわく算数のようなボランティアをすることが初めてなんです」という大学生が多くいました。子どもとこうして関わることが初めて…。最初は相当緊張したことだろうと思います。もちろん、どんなベテラン教師でもベテランSPでも「初日」はあったわけで、不安の中、子どもとの関わりを通して経験を積み、上手になっていくのですが、そういう人がとても多い日でした。



でも、見ていて驚きました。そして、知りました。この東浦の学生ボランティア事業は、「初日の人でも、ずっとやれる、上手にやれる、気持ちよくやれるシステムができています。これが、東浦のSP活動のすごいところ」ということに。ボランティアを採用している自治体は最近すごく増えています。しかし、それがこれほどスムーズに受け入れられ、気持ちよくやっていただけ、さらに成果を生んでいる（子どもが喜ぶ、SPさんが楽しく活動できる）、こんなシステムがある自治体は、まず無いでしょう。

これは、ひとえに、中村先生が築き上げたものです。東浦町のバックアップもありますが、中村先生が、SPさん1人1人を大事にして、システムのなところをしっかりと考え、初めての人もうまくいくように、仕組んでいるのです。SPさんも感じるのでしょうか。「私のことをこんなに大事にしてくれる」。だから、頑張れる、という点もあると思うのです。

この日、初日の初々しい雰囲気がありました。子どもに全力で関わってくれるので、子どもたちもうれしそうです。ありがたいことです。このシステム、この事業のすごさの一つを見ることができました。

東浦中学校竹内稔博先生作成の「わくわく算数・数学教室通信第24号」を「ツムぐ学生」用に改編しました。